

島根県と隠岐の漁業

2 回生 浅本全

I はじめに

島根県は海岸線が 1027km と長くこれは全国でも 10 番目の長さである。沖合が底の浅い大陸棚になっておりそこには黒潮から分かれた対馬暖流が北東に向かって流れているため良い漁場が形成されている他、隠岐という離島があり浜田港という比較的有名な漁港がある。一方で島根県が漁業において有名な県として挙げられることはあまりない。ここでは現在の島根県の漁業がどうなっているのかを明らかにしていきたいと思う。

II 全国の漁業における島根県の位置

まず漁業とは営利を目的として魚介類の捕獲や養殖する産業のことであるⁱ。島根県は 2018 年度の都道府県別の漁獲量（漁労作業により得られた水産動植物の採捕時の原形重量であるⁱⁱ。）からは北海道や長崎県など全国的に漁業で名を知られている県がありながらも 8 位に位置している（表 1）。

表 1 都道府県別漁獲量（上位 10 県）（2018 年）

順位	都道府県	漁獲量 (t)
1	北海道	876625
2	長崎県	290591
3	茨城県	259031
4	静岡県	195346
5	宮城県	184738
6	千葉県	132726
7	三重県	131881
8	島根県	113094
9	宮崎県	103281
10	青森県	90344

「大海区都道府県振興局統計」より作成

次に都道府県別海面漁業生産額においては 13 位に属している（表 2）。漁獲産出額とは海面漁業、海面養殖業、内水面漁業及び内水面養殖業の産出額並びに生産漁業所得を推計するとともに、参考値として種苗（海面養殖業及び内水面養殖業）の生産額を推計したものであ

るⁱⁱⁱ。これらの表を対比してみると島根県の漁獲量は多いが漁業産出額がそこまで高くはないことがわかる。このことから量は多くとも値段が高くなりにくい魚種を主に漁獲しているか、何らかの理由で付加価値がつけにくくなっているのではないかという推論が立てられる。この表においても北海道や長崎県等は漁獲産出額においてもその順位があまり変わらないことから島根県で漁獲される魚の種類と量、金額やそれらの魚をどのようにして漁獲しているかに焦点を当てながら調べていくことで島根県の漁業の在り方をしることができのではないかと考えた。

表2 都道府県別海面漁業産出額（上位15県）（2018年）

順位	都道府県	海面漁業 産出額 (億円)
1	北海道	2382
2	長崎県	636
3	宮城県	563
4	静岡県	529
5	青森県	412
6	岩手県	287
7	兵庫県	278
8	高知県	268
9	三重県	259
10	宮崎県	242
11	千葉県	237
12	鹿児島県	228
13	島根県	217
14	鳥取県	215
15	愛媛県	203

「大海区都道府県振興局統計」より作成

また海岸線の長さ（表3）では10位、漁港数（表4）においては15位、海岸線当たりの漁港数（表5）では11位に位置していることがわかる。これらの表を対比してみると島根県の全国的な位置は海岸線の長さ当たりの漁港数よりも漁獲量の方が高く、漁業産出額の方が低いということがわかる。このことから量は多くとも値段が高くなりにくい魚種を主に漁獲しているか、何らかの理由で付加価値がつけにくくなっているのではないかという推論が立てられる。

表3 都道府県別海岸線総延長（上位12県）（2014年）

順位	都道府県	海岸線 総延長 (km)
1	北海道	4,460
2	長崎県	4,183
3	鹿児島県	2,665
4	沖縄県	2,037
5	愛媛県	1,716
6	山口県	1,580
7	三重県	1,140
8	広島県	1,128
9	熊本県	1,077
10	島根県	1,026
11	兵庫県	850
12	宮城県	829

「環境省 環境統計集 都道府県別海岸延長」より作成

表4 都道府県別漁港数（上位17県）（2014年）

順位	都道府県	漁港数
1	長崎県	284
2	北海道	282
3	愛媛県	195
4	宮城県	142
5	鹿児島県	139
6	岩手県	111
7	大分県	110
8	熊本県	103
9	山口県	97
10	和歌山県	94
11	香川県	92
12	青森県	90
13	高知県	88
14	沖縄県	88
15	島根県	83
16	三重県	73
17	千葉県	69

「水産庁 漁港一覧」より作成

表5 都道府県別海岸線100kmあたりの漁港数（上位13県）（2014年）

順位	都道府県	海岸線 100km あたりの 漁港数 (港)
1	宮城県	17.15
2	岩手県	15.62
3	和歌山県	14.45
4	大分県	14.25
5	香川県	13.13
6	千葉県	12.91
7	高知県	12.25
8	愛媛県	11.35
9	青森県	11.29
10	熊本県	9.51
11	島根県	8.08
12	長崎県	6.78
13	三重県	6.37

「環境省 環境統計集 都道府県別海岸延長」及び「水産庁 漁港一覧」より作成

Ⅲ 島根県の漁業

島根県の漁業産出額の推移（図1）からは少しずつ減ってきてはいるがほぼ横ばいであることがわかり、島根県の漁業種別の割合（図2）からは巻き網漁の割合が他の漁業種に比べて極めて多いこと、その一方で島根県の漁業産出額（図3）は高めではあるもののそこまで大きな差が開いてはいないこともわかる。

これらのことから近年においては島根県における漁業の事情は大きな変化がないことや巻き網漁によって大量の魚を漁獲しているものの巻き網漁によって漁獲された魚介類にはほかの漁獲方法で漁獲された魚介類に比べて高い値段がついていない、あるいはつけられないのだろうということが推測できる。

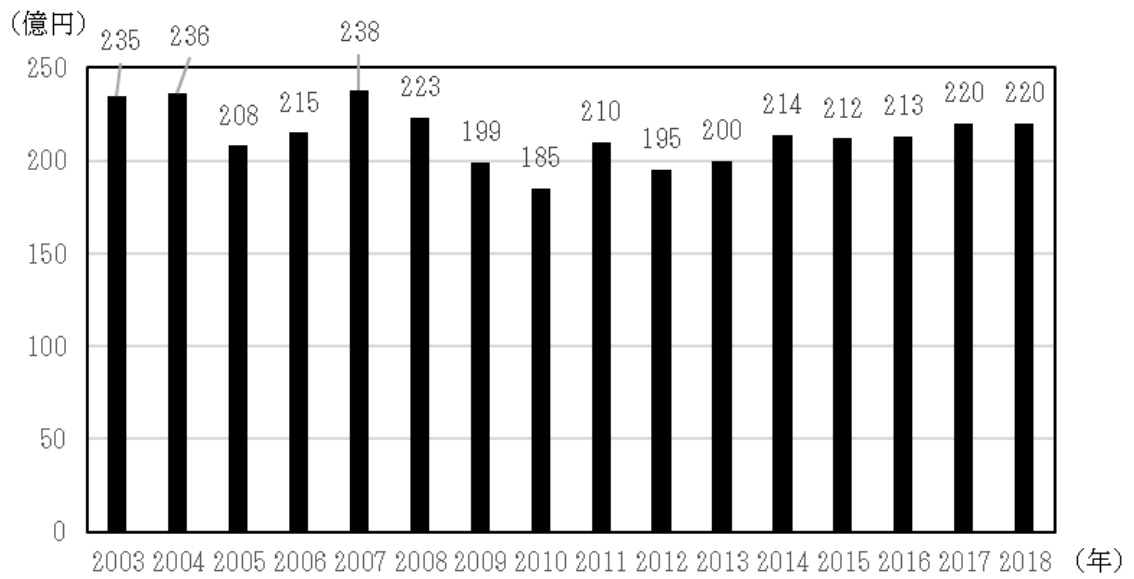


図1 島根県の漁業産出額の推移
「大海区都道府県別統計表」より作成

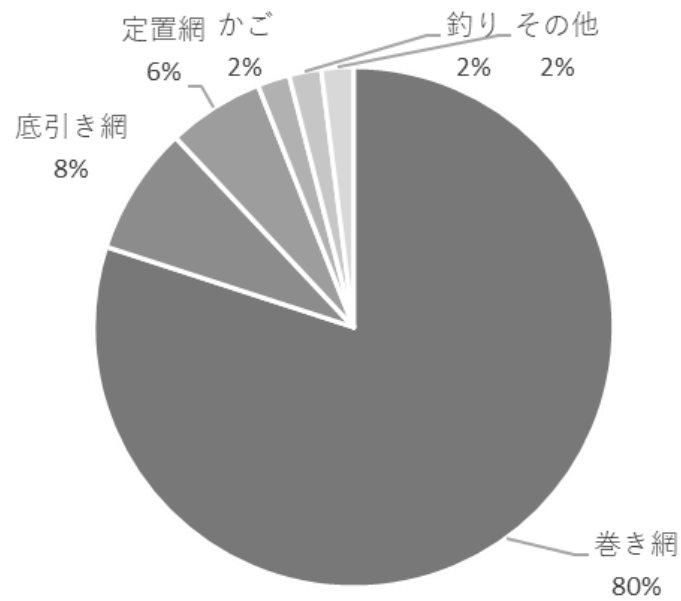


図2 島根県の漁業種類別漁獲量割合（2018年度）総計 107111t
「農林水産省 島根県漁業の動向」より作成

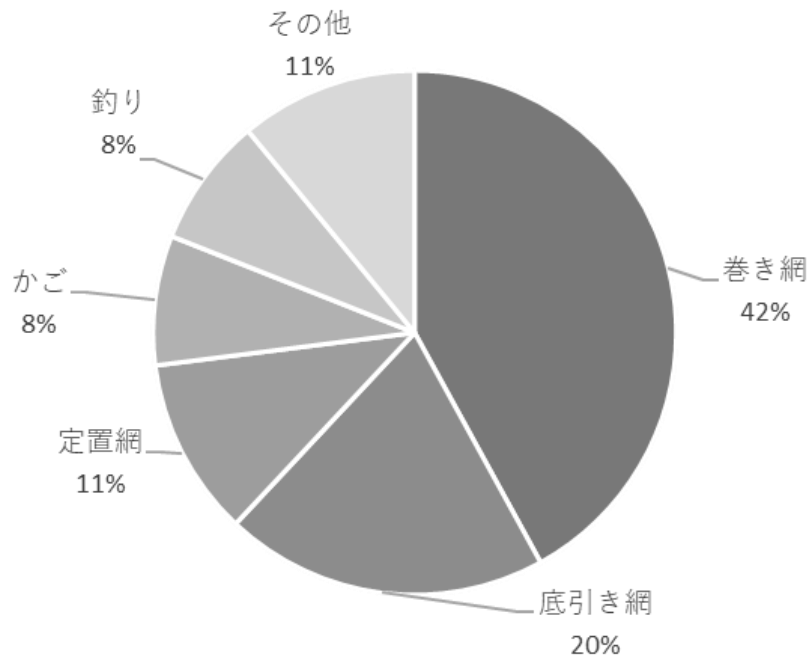


図3 島根県の漁業種別生産金額割合（2018年度）総計220億円
「農林水産省 島根県漁業の動向」より作成

また島根県の魚種別漁獲量内訳（表6）からはさばやあじ、いわしやぶりなど海面付近に群れで生息していることが多く一気に漁獲しやすい、つまり隠岐でとても盛んな巻き網漁でよく漁獲される魚種が上位を占めていることから島根県で最も多くの量の魚介類を漁獲している巻き網漁によって漁獲されているであろうということが言える。しかし、島根県の魚種別の漁獲量と島根県の魚種別漁業産出額内訳（表7）ではその順位が異なっていることと小さい魚であるいわしの順位が下位に転落しており、大きな魚であるぶりの順位が上昇していることがわかるのでそこから巻き網漁とそれによって漁獲されている魚介類に島根県が漁業であまり有名でない原因があるのではないかと考えることができる。

表6 島根県の魚種別漁獲量内訳 (2018年)

魚種	魚種別 漁獲量 (t)	割合 (%)
さば	34259	32
あじ	28567	27
いわし	20972	19
ぶり	9578	9
かれい	2983	3
いか	2237	2
かに	2174	2
その他	6341	6
総計	107111	100

「大海区都道府県別統計表」より作成

表7 島根県の魚種別漁業産出額内訳 (2018年)

魚種	魚種別 漁業 産出額 (億円)	割合 (%)
あじ	33	15
ぶり	28	13
さば	21	9
いか	18	8
かに	17	8
かれい	15	7
いわし	12	5
その他	77	35
総計	220	100

「都道府県別魚種別産出額統計」より作成

そして島根県の市区町村別漁獲量(表8)からは隠岐の島町及び西ノ島町、つまり隠岐地区が島根県内での漁獲量の大半をしめていることがわかる。また、島根県内の地区別の漁業種別漁獲量(表9~11)からは隠岐の島町で他の地区と比べても盛んに巻き網漁がおこなわれていることがわかる。以上のことから島根県内で多くの割合を占めている巻き網漁が隠岐地区に集中していること、またその中で比較的高値がついているぶりと隠岐地区を調べることによって巻き網漁が集中するだけの理由と巻き網漁で漁獲される魚介類に高値がつかない理由を知ることができると考えた。

表 8 島根県の市区町村別漁獲量

市区町村	市町村別 漁獲量 (t)	割合 (%)
隠岐の島町	52215	46
西ノ島町	22405	20
松江市	17420	15
浜田市	10789	10
大田市	5946	5
出雲市	3185	3
益田市	549	1
江津市	271	0
海士町	231	0
知夫村	63	0
安来町	19	0

「農林水産関係市町村別統計」(2018年)より作成

表 9 地区別漁業種類別漁獲量 出雲地区 (2018年)

漁法	漁業 種類別 漁獲量 (t)	割合 (%)
定置網	3949	48
かご	1620	19
底引き網	1080	13
釣り	644	8
その他	1006	12
総計	8299	100

「島根県隠岐支庁水産局提供資料」より作成

表 10 地区別漁業種類別漁獲量 石見地区 (2018年)

漁法	漁業 種類別 漁獲量 (t)	割合 (%)
巻き網	7220	43
底引き網	7176	43
定置網	1143	7
その他	1113	7
総計	16652	100

「島根県隠岐支庁水産局提供資料」より作成

表 11 地区別漁業種類別漁獲量 隠岐地区 (2018 年)

漁法	漁業 種類別 漁獲量 (t)	割合 (%)
巻き網	71818	96
定置網	1404	2
かご	959	1
その他	1044	1
総計	16652	100

「島根県隠岐支庁水産局提供資料」より作成

その他養殖業に関しては島根県ではほぼ行われていない。この理由としてはそもそも島根県内に養殖しやすい地形が少ないことが挙げられている。なぜ少ないかについて言及すると、まず島根県の西部である石見地区では海岸の起伏が少なく養殖に必要な波のない場所がほぼ無いため行われておらず、東部の出雲地区では波の少ない場所もあるもののそのうちの多くが漁港としても使われているため養殖を行うことが難しいためわざわざその場所で行う理由がないようである。隠岐地区ではかつては回遊魚の養殖を行っていたこともあるようだが、現在では技術の発展によって一つの場所で完全養殖ができるようになったためそれも撤退し、船の邪魔にならない程度の規模の牡蠣やわかめの養殖がおこなわれている程度である。

IV 隠岐の漁業

隠岐地区の魚種別漁獲量（表 12）では巻き網で漁獲される魚種がほとんどを占めていることがわかる。隠岐及び島根県内で行われている巻き網漁は中・小型巻き網と呼ばれているやり方の網で魚を囲んで引き上げる網船、魚の群れを探して集魚灯で捕まえやすいように集める灯船、取った魚を運ぶ運搬船の各 1、2 船ほどで船団を組むことで行われている。このやり方では漁獲することのできる魚の群れがいる場所に行ってそこで魚をまとめて一気に漁獲するため、どこか特定の場所で漁獲することができないので港までの距離が遠くなりやすく、したがって漁獲する際や港まで運んでいる際に傷みやすいためブランド化によって付加価値をつけることができないようである。このことからいわしのような魚体が小さい魚種は中まで傷みやすく値段が下がってしまいやすい。反対にぶりは魚体が大きく表面は傷がついてしまいやすいのでブランド化はできないもののそれなりの値段が付くことによって順位が異なっているようである。松江市や出雲市でぶりがそれなりに漁獲されているのは松江市では定置網による漁獲が、出雲市では大社ぶりというブランド化をおこなっているためである。

表 12 隠岐地区の魚種別漁獲量 (2018 年)

魚種	漁獲量 (t)	割合 (%)
さば	24341	32
あじ	22023	29
いわし	18666	25
ぶり	6869	9
その他	3345	5
総計	75224	100

「島根県隠岐支庁水産局提供資料」より作成

また巻き網は船団を組んで広い海域を移動しながら漁を行うため都道府県別のぶりの漁獲量(表 13)では2位に位置している。また巻き網自体の漁獲量も長崎県に次いで2位に位置している。これだけの事実があっても島根県は漁業が盛んであるという認識は一般的にはないと考えられる。この原因は先にも挙げたように巻き網漁という形態上どうしても起こってしまう魚介類の劣化と巻き網で漁獲されたものは直接境港に運ばれてしまうことにあると考えられる。島根県内を経由することなく境港にすべて集められてしまいそこから島根県や全国に運ばれてしまう上広い海域を回ることや傷がついてしまうためブランド化ができないことによって特定の地域の名を上げることもできない以上、島根県のものであるというよりは境港のものであるという認識がこれらに関わっている人たちにも強いのだと考えられる。また、スーパーなどで普段買うぶりの切り身に島根県産と表記して置いてあったとしても、人々の目につくのは上の方に置かれていたり宣伝されたりしている他地域のものであることが多い。

以上のことが実際には島根県での漁業が盛んであるがそのことがあまり認識されていない、特にぶりは漁獲量では全国 2 位であるにもかかわらずぶりで有名な場所として島根県が認識されない理由であると考えられる。

表 13 都道府県別ぶり漁獲量(2018 年)

順位	都道府県	漁獲量 (t)
1	長崎県	14113
2	島根県	9578
3	千葉県	8948
4	北海道	8264
5	鳥取県	8159
6	岩手県	7546
7	石川県	6440
8	三重県	4646
9	子地検	4622
10	宮城県	3257

「大海区都道府県別統計表」より作成

表 14 島根県市町村別ぶり漁獲量

市区町村	漁獲量 (t)	割合 (%)
隠岐の島町	5086	53
西ノ島町	1832	19
松江市	1618	17
出雲市	576	6
大田市	181	2
益田市	99	1
浜田市	94	1
江津市	34	1
海士町	32	0
知夫村	26	0

「大海区都道府県別統計表」より作成

V おわりに

本稿では、現在の島根県の漁業について隠岐島を中心として分析した。現在日本全国に起きていることと同様に、島根県でも漁業の衰退が起こっている。金額面などでいえばあまり変わっているようには見えないが、それは大規模な漁業を行っていて経営もうまくいっているような会社などが減っていないだけであり、沿岸漁業のような個人で行われるような漁業、いわゆるいか釣りのようにかつては有名であったこともあったもののいか釣りをする人もかつての半分ほどに減っているような漁業は特に衰退が激しくなっている。理由としては温暖化などに伴う魚相の変化や規制の強化、設備投資の厳しさなどが挙げられるようである。有名であるものが減り、有名でないものの量を消費者が必要とするものであり、その漁獲高が高いこともまた島根県の漁業が有名でない原因の一つなのかもしれない。

島根県の漁業は長所をいくつも持っていると考えられるがその長所こそが有名であることを妨げていることを考えてみると少し無常さを感じてしまうがこのような形で日本の漁業の一部となっていることもまた重要なことであると考えてもいいのではないだろうか。

付記

本稿を作成するにあたり、島根県水産課しまね振興室 主任 佐藤勇介様、隠岐の島町総務課 係長 八幡貴之様、島根県総務部 隠岐支庁水産局水産課 課長 池田博之様、隠岐の島町農林水産課 水産振興室 企画幹 大上達也様、JF 西郷の皆様には、お忙しい中大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

-
- i 海面漁業生産統計調査
 - ii 海面漁業生産統計調査
 - iii 海面漁業生産統計調査